

■川田小一郎 実業家。三菱財閥創業期の功労者。日本銀行の第3代総裁となり、“大総裁”謳われるも、在職中没した。

かわだこいちろう

・ ・ ・ ・ ・ 1836 = 高知藩士川田恒之丞の次男として土佐郡杵田村(高知市旭町)に生まれる。

大塩平八郎乱 1837 = 1歳 :

阿部正弘首座 1845 = 9歳 :

ペリー来航 ・ 1853 = 17歳 :

開国開港 ・ ・ 1854 = 18歳 :

桜田門外変 ・ 1860 = 24歳 :

8月18日政変 1863 = 27歳 :

若年より経理的才能にひいで、藩庁会計方につとめる。

明治維新 ・ ・ 1868 = 32歳 : 土佐軍に参加し、土佐藩領の伊予国川之江銅山の暴動勃発に際して敏腕を振るい、別子銅山の接収にあたったが、その際住友の別子稼行の継続に尽力した。

初の日刊新聞 1870 = 34歳 : 藩の土佐商会において岩崎弥太郎と相識るに及び、

廃藩置県 ・ ・ 1871 = 35歳 : *藩職を辞任して、弥太郎と{九十九商会}を創立して、海運業を始める。

学問のすすめ 1872 = 36歳 : 同商会在{三川商会}となり、

明治6年政変 1873 = 37歳 : さらに{三菱商会}に改組改称され、岩崎の事業として発足するや、これに参画。

初の民間工場 1875 = 39歳 : *{三菱商会}の社制採用に伴い、石川七財とともに管事につき、社長弥太郎を補佐した。

西南戦争 ・ ・ 1877 = 41歳 : 西南戦争では、三菱の総力あげての政府軍の輸送を指揮、

主として三菱の鉱山事業を総轄し、紀州炭坑・吉岡銅山・高島炭坑の経営をはじめ、全国各地方にわたり鉱山買収をすすめ、

明治14年政変 1881 = 45歳 :

新体詩抄 ・ ・ 1882 = 46歳 : 盟友石川が急逝したため、

一人で弥太郎・弥之助を援け、共同運輸会社との競争に八面六臂の活躍をし、

内閣発足 ・ ・ 1885 = 49歳 : 弥太郎の死去に際して、岩崎弥之助とともに後事を託され、両社合併による日本郵船の設立を実現。

帝国憲法発布 1889 = 53歳 : *黒田清隆内閣の蔵相松方正義の推薦により第3代日銀総裁に就任し、

帝国議会始 ・ 1890 = 54歳 : 恐慌に際しては有力会社の株式を担保に手形割引を行い財界救済にあたる。貴族院議員に勅選され、

足尾鉍毒始 ・ 1891 = 55歳 : アメリカ留学から戻った岩崎久弥が副社長に就くと、あっさりと三菱の管事の肩書を返上。

日清戦争始 ・ 1894 = 58歳 : 日清戦争勃発するや、戦費調達を円滑化するため臨時貸上金をもってこれを補填し、

日清戦争終 ・ 1895 = 59歳 : 日清戦争終了後は賠償金をひきあてに積極策を推進した。男爵を授けられる。

さらに国立銀行の普通銀行転換を促進し、銀行券発行の集中主義を確立するとともに、極度のオーバーローンになやむ普通銀行を対象に手形再割引などを行い、金融界における日銀の地位を大いに高めるなど、20年代の急速な工業化を背景に活躍。一方日銀に山本達雄・高橋是清ら有為の人材を集め、後継者養成にも努力するなど、日銀の大総裁と称され、財界の大御所的存在として活躍したが、

白馬会 ・ ・ ・ 1896 = 60歳 : *巨額の建築費を惜しまず進めた日本銀行本店が竣工した年に、在職のまま、病気で急逝した。